



大槻和浩《明日を見つめて》 齋藤詩織《女狩人のごちそう》 松浦清晴《身体記》 小俣花名《朝ご飯》

8 回目となるFACE2020は、前年比5点増の875作品が出品されました。四次に及ぶ入選審査では、個人情報に伏せた作品本位の審査が行われました。昨年を大幅に超過する時間をかけて、数度にわたり真摯に作品と対峙する審査の結果、71点の入選作品を決定しました。入選者は9歳から79歳まで、男性38

FACE2020 損保ジャパン日本興亜美術賞 優秀賞を4名に授与

名、女性33名、平均年齢38.5歳でした。今回の賞審査では、投票と合議によって審査員満場一致するグランプリ作品を選出することが叶わず、初めて該当者なしとなり、優秀賞を4名に授与することになりました。

【展覧会データ】
展覧会名 | FACE展2020 損保ジャパン日本興亜美術賞
会 期 | 2020年2月15日(土)~3月15日(日)
主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 読売新聞社
協 賛 | 損保ジャパン日本興亜

新収蔵品紹介

東郷青児が19歳のとき第3回二科展に初出品して二科賞を受賞した《パラソルさせる女》は、日本で初めてモデルを見分け難いほど幾何学的に分解して描いた最初期の代表作です。滞仏中の油彩画《南仏風景》



(1922年)と《髪》(1924年)と共に、一般財団法人陽山美術館から寄託を受けました。また、当館が収蔵する山口華楊の《猿》(1959年、第2回新日展出品)の大小絵をご遺族から寄贈いただきました。日本画にとって、完成作と同寸の大小絵は画家の推敲の跡が窺える貴重な資料です。

東郷青児《パラソルさせる女》1916年 油彩・キャンヴァス 66.1×81.2cm 一般財団法人陽山美術館より寄託

お知らせ SOMPO美術館オープン



新美術館(イメージ)

2020年5月28日、SOMPO美術館が誕生します。43年超にわたり歴史を積み重ねてきた当館は、隣接地の新美術館棟へ移転し、「SOMPO美術館」に館名を変更して開館します。白を基調とした空間に作品が浮かび上がる展示室。ゴッホ《ひまわり》をより身近に感じて鑑賞いただけます。開館記念展 (I. 珠玉のコレクション/II. 秘蔵の東郷青児) で幕を開けます。



当館は、東郷青児の作品約240点を収蔵しており、このマークはその中の1点《超現実派の散歩》(1929年)をモチーフにしたものです。優れた美術作品と出会ったとき、人は心が解放され、作品世界で遊ぶような感覚を覚えます。この作品の「散歩する人」はそうした心の自由を表しています。



3階展示室(イメージ)

パース提供: 株式会社丹青社

開館43周年を迎えた当館は、2020年度、館名と建物を新たに生まれ変わります。損保ジャパン日本興亜本社ビル42階での活動が最後となった2019年度は、春・夏の特別展と公募展を開催、開館以来の累計観覧者数が600万人を達成しました。本号では、43年間の歩みを振り返るとともに、2019年度の活動をご報告します。



美術館入口

42階を振り返る 損保ジャパン日本興亜美術館の歩み

今から43年前の1976年7月、損保ジャパン日本興亜の前身会社の一つである安田火災は、本社ビルの42階に「東郷青児美術館」を設立しました。同社とゆかりのあった洋画家、東郷青児の作品展示を中心に構想され、

氏の没後も活動を継続し、これまでに約100本の様々な展覧会を開催してきました。設立時より実施し

ている新進作家の支援事業も、8回目となるFACE展に引き継がれています。東郷の遺贈品345点からスタートしたコレクションも、当館の顔となっているゴッホの名画《ひまわり》の収蔵(1987年)などを通じて充実し、現在では約630点を数えます。また東京都心の

眺望も魅力の一つとなり、都会の中の高層美術館として、長年にわたって皆様に愛されて参りました。

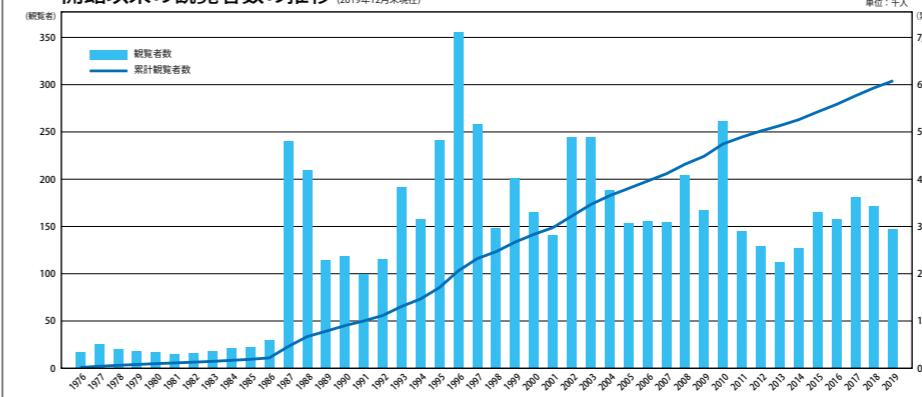


《ひまわり》展示風景(2019年現在)

「ゴッホと同時代の画家たち: ゴッホと花『ひまわり』をめぐって」展(2003年)の展示風景

撮影: 高山宏

開館以来の観覧者数の推移 (2019年12月末現在)



東京火災の保険案内パンフレット(昭和戦前期)

当館のあゆみ

1976	6月、財団法人安田火災美術財団設立
	7月、「東郷青児美術館」開館
1977	中堅作家を表彰する「東郷青児美術館大賞」、および新進作家支援育成のための「安田火災美術財団奨励賞」を創設
1978	4月25日、東郷青児没 東郷青児の遺族より美術品345点を受贈
1980	東郷青児美術館大賞作家展を開始
1981	安田火災美術財団奨励賞展を開始
1987	4月、「安田火災東郷青児美術館」に館名変更 10月、フィンセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》を安田火災より受託、一般公開
1989	1月、ポール・ゴーギャン《アリスカの並木路、アルル》一般公開
1990	1月、ポール・セザンヌ《りんごとナブキン》一般公開
2002	7月、「損保ジャパン東郷青児美術館」に館名変更
2008	新宿区立小中学校美術鑑賞教育支援活動開始
2011	新進作家の支援・育成を目的として美術賞「FACE」を創設
2013	FACE展を開始
2014	9月、「東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館」に館名変更
2017	東郷青児・たまみ両氏の著作権を取得
2019	7月31日、開館以来の累計観覧者数が600万人を突破
2020	4月、「SOMPO美術館」に館名変更 5月28日、新美術館へ移転・開館(予定)



42階東回廊からの眺望



シャルル＝フランソワ・ドービニー 《ボタン号》1869年頃 油彩・キャンヴァス 171.5×147cm フランス、個人蔵
©Archives Musées de Pontoise

シャルル＝フランソワ・ドービニー展 Charles-François Daubigny

19世紀フランスを代表する風景画家シャルル＝フランソワ・ドービニー（1817～1878）は、1850年代を通じてサロンを中心に活躍し、作品が国家に買い上げられるなど、中央の画壇でも高い評価を得ていた画家です。しかしその一方で「未完成の粗描き」「最初の印象で満足している」など、後の印象派

への「酷評」を彷彿とさせるような批判も受けていました。自然のみずみずしさを何気ない筆致で表現したドービニーの新しいスタイルは、サロンの伝統に忠実な保守派にとって許し難い物であったのかも知れません。

ドービニーは太陽の光や水のきらめきをより身近に感じ取るために、アトリエを兼ねた船（アトリエ船）をしつらえ、戸外での制作を試

みました。住居兼アトリエを構えたパリ近郊のオーヴェール＝シュール＝オワーズから、ドービニーはアトリエ船でオワーズ川やセーヌ川沿いを、時にはノルマンディーを横切り英仏海峡まで航行します。後に風景画家となる息子シャルル（後にカール）との楽しい船旅の様子は、今回、銅版と共に出品された版画集『船の旅』からうかがうことができます。本展では『船の旅』と共に、アトリエ船の模型も出品されました。

本展は2018年から2019年にかけて国内5か所を巡回、ドービニーによる作品89点、ならびに息子カールやドービニー周辺の画家たちによる作品20点で構成された、本格的にドービニーを紹介する国内初の展覧会となりました。

【展覧会データ】

展覧会名 | シャール＝フランソワ・ドービニー展
会期 | 2019年4月20日(土)～6月30日(日)
主催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 読売新聞東京本社
協賛 | 損保ジャパン日本興亜
後援 | 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランス日本
協力 | エールフランス航空
監修 | ランス美術館 Exposition produite et gérée par le Musée des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS.
企画協力 | プレートラスト



シャルル＝フランソワ・ドービニー 《オワーズ河畔》1865年頃 油彩・板 32.2×56.8cm ランス美術館
©Christian Devleeschauwer

新 宿区立小中学校を対象とした「対話による美術鑑賞教育」支援活動も12年目を迎え、2019年度は区内全小学校29校・中学校3

校の支援をすることができました。一般来館者向けの「対話による鑑賞会『ギャ



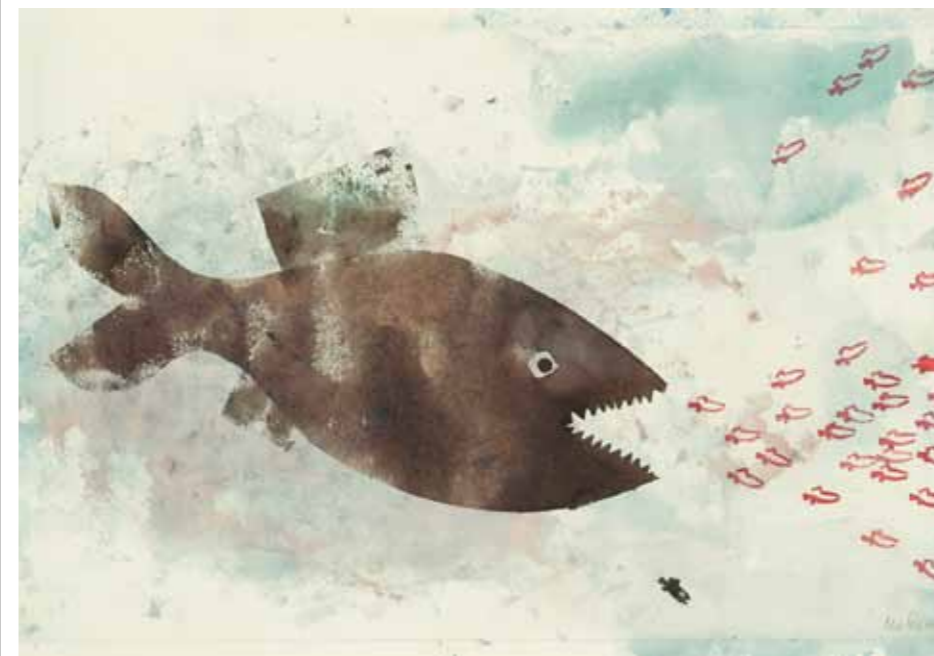
2019年度の鑑賞教育活動

ラリー★で★トーク・アート』は展覧会ごとに休館日を1日開放して開催。夏休みには特別企画「ふぁみりー★で★とーく・あーと」を2回行い、小さなお子様にもご家族と一緒に作品を楽しんでもらいました。

ボランティアガイドスタッフは6名が新たに加わり、総勢74名で活動を行いました。ガイドスタッフ向けの講演会では、プロの作家さんから「伝える」という鑑賞教育活動には欠

かせない技についてレクチャーいただき、早速実践で活用しています。他館との交流会として、国立西洋美術館と当館の展示室にてお互いの活動を実演しながら意見交換をし、館独自の活動についての理解を深め、今後の活動に繋げる時間としました。その他、展覧会研修会や勉強会など、ボランティア活動が充実し魅力あるものになるように努めています。

みんなのレオ・レオーニ展 READING LEO LIONNI, AGAIN.



『スイミー』原画 1963年 水彩・モノタイプ 54.5×72.5cm スロバキア国立美術館
Swimmy ©1963 by Leo Lionni, renewed 1991/ Pantheon On Loan By The Slovak National Gallery

レオ・レオーニ（1910オランダ～1999イタリア）は、子供の本に初めて抽象表現を用いた『あおくときいろちゃん』や、小学校の教科書に長年掲載されている『スイミー』、『フレデリック』等の絵本を手掛けていることで、日本では広く絵本作家として知られています。しかし、キャリア前半はアメリカでグラフィック・デザイナーとして成功を収め、イタリアを拠点に絵本作りに踏み出すのは、デザイナーをリタイアした50代以降であり、油絵や彫刻、アニメーションにも取り組むなど、創作活動は多岐に渡ります。本展はそうしたレオーニの多彩な作品を日本で紹介する約20年ぶりの回顧展です。

激動の20世紀を生き抜いたレオーニの

波乱の人生と重ね合わせて作品を読み解くというコンセプトのもと、作風の変遷を追うのではなく、社会に貢献する芸術家、自分探し、平和への思いなど、時とジャンルを超えてレオーニの創作活動を支えた内面や生き方を通して作品を見ていく構成で展示しました。絵本原画を中心とする約200点の作品以外に、レオーニの絵本を読んだり、映像や造作物で体感したりできるコーナーを設置したほか、当館では、展示室で声の大きさを気にせず会話できるトー



レオーニの絵本『あいうえおのき』がモチーフのパネル。来館者が、葉っぱ型シールに自分の好きなレオーニの絵本とコメントを書いて貼りつけました。



「平行植物」シリーズ《向日葵》1971年
油彩・キャンヴァス 150×200cm
Works by Leo Lionni, On Loan By The Lionni Family

クフリーウィーク期間を設け、夏休みの家族連れをはじめ多くの方々に鑑賞をお楽しみいただきました。

2018年8月に伊丹市美術館をスタートした本展は、新潟県立万代島美術館、ひろしま美術館、当館を経て、長島美術館（鹿児島）、沖縄県立博物館・美術館を巡回します。

【展覧会データ】

展覧会名 | みんなのレオ・レオーニ展
READING LEO LIONNI, AGAIN.
会期 | 2019年7月13日(土)～9月29日(日)
主催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 朝日新聞社
協賛 | 損保ジャパン日本興亜
企画協力 | Blueandyellow, LLC
コスモマーチャンダイズィング、渋谷出版企画
協力 | 好学社、あすなる書房、至光社



累計観覧者数600万人達成

2019年7月31日(水)、開催中の「みんなのレオ・レオーニ展」にて開館以来の累計観覧者数が600万人に達しました。

600万人目の観覧者となったお客さまには中島館長より、記念品としてゴッホ《ひまわり》の七宝焼き複製画と、レオ・レオーニ

の絵本『フレデリック』のぬいぐるみを贈呈しました。夏休み中のお嬢さまと一緒に来館され、「娘が教科書で習った『スイミー』や、ゴッホの《ひまわり》を楽しみにして初めて来ました。幸運にも600万人目の入館者となりました。」と笑顔でお話いただきました。